

まちを心から楽しみ、 課題解決にも貢献。 新たな価値を共創する 人物を育て上げる学習

— 市立札幌藻岩高等学校の取り組み(下) —

浦崎太郎 大正大学地域創生学部教授

地域で「自分らしく社会に参加する」きっかけをつかんで活動し、多くの共感を集めて、進路が変わる生徒さえ現れた市立札幌藻岩高等学校。都市部の進学校が加わらずに地元の持続可能性は高まるのか。前回に引き続き、「進学校の常識」を問う、同校の挑戦と実績を紹介する。
写真提供 ● 市立札幌藻岩高等学校



町内会主催の輪投げ大会の様子。野球部生徒が参加し、会場は大盛況。

「南区探究MSP」初年度のフィールドワークの様子。子育て・福祉をテーマに探究した。



地域連携や探究とは縁が薄い 藻岩高等学校が変革した理由

市立札幌藻岩高等学校は、札幌市南区にある各学年8クラス規模の普通科進学校だ。そう聞くと、誰もが「地域連携や探究とは最も縁が薄い高校」と想起するに相違ない。しかし同校は、そうしたイメージを軽やかに超える教育活動を展開している。

同校は2018年度、2年生の「総合的な探究の時間」で「南区探究MSP」(以下、MSP)を試行。その手応えを得て、2019年度からは年間計画に位置づけて実施している。

MSPのMは「藻岩・南区」を表し、Sは「Smile(笑顔)・Sustainable(持続可能)」、Pは「Project(計画)・Platform(人々が

集う場)の頭文字で、「地元の笑顔や持続可能性向上のために考えて動く活動」という意味が込められている。(前回参照)

では、生徒はどのような活動を通して成長したのか。また、学校や地域に何か変化はあったのか。2019年度を象徴する事例を紹介したい。

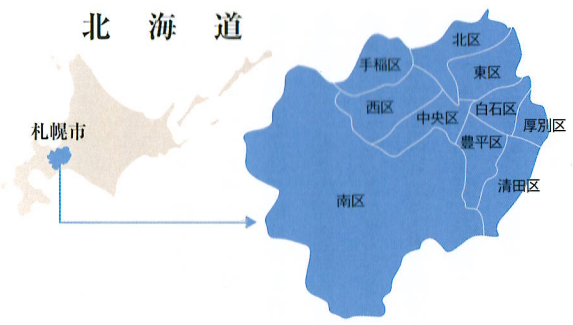
同校に近い真駒内の上町名店街では、空き店舗を未来に向けて活用する事業が始まっていた。そして、地域のさまざまな活動を2年生で紹介する授業を通して、この事業に関心を寄せた女子数名が参画することに。そこで女子高校生たちが考えたことは、大好きな「スイーツづくり」。南区は果物の産地であること、同級生に果樹園の息子がいることがヒントとなり、地元産のリンゴでアップルパイをつくる案が浮上した。

そして、今年2月8日の「真駒内ふゆあそび&ゆきまるしえ」で販売することになった。店名は真駒内の「マコ」と、花言葉で、好奇心を表す「オトメユリ」の「リ」から「MACORRI」と命名。

まちの課題解決を楽しむ姿が 地域の人たちの心を動かした

結果、アップルパイと「食べ歩き文化」が重なり、楽しさと名店街の持続可能性とが結合。探究に勤しむ意味も深まり、夢中になって試作を繰り返した。

販売当日の「真駒内ふゆあそび&ゆきまるしえ」では、50個限定で用意したアップルパイが開店からわずか21分で完売した。「高校生たちはこの経験から、『自分らしく社会に参加する』手応えを得たのだと思います。このような変化は、学校の中だけでは起きません」と同校教諭で「総合的な探究の時間」に取り組む長井翔さんは語る。では、藻岩高等学校が取り組んだ「総合



北海道札幌市南区は同市の南西部に位置する広大な区だ。面積は全市域の約60%に及び、多くを山林が占める。人口136,397人(2020年8月1日現在)。大半は市街地に隣接するエリアに居住している。

藻岩高等学校 2年生による「南区探究」の主なテーマ (2019年度)

テーマ	探究の目的と問い	探究の意義	探究の成果
ヒグマと共存するために	草刈りの大切さをみんなに知ってもらおう	草刈りをすればヒグマは出ないのではないかと	●実際に草刈りを実施したことで、ヒグマの出没が大幅に減った
若者があふれるまちへ	なぜ真駒内には若者が少ないのか	真駒内に若者が少ない理由を解明することで真駒内の発展に何が必要なのかをわかる	●仮説の通り、飲食店の不足も影響 ●道路沿いに集客力のある店が少ない ●地域の行事に参加する人数は、年齢が低いほど少なくなっている
頼る、頼られる空間へ (全ての人々が平等で笑顔あふれるまちづくりを)	住民の壁をなくすには、どのようなことを行えばよいのか	例えば、育児に忙しく、自分の時間をつくれぬ人が気軽に近所の方に子どもを預けて、買い物に行けるよう住民同士、協力し合う機会をつくると喜ばれるのではないかと	イベントを行ってわかったこと 「〇〇さん~してくれない?」「〇〇さん~お願いします」など、周りの人に頼ったり、頼られたりする場面があり、常に皆が周りを見て行動し、協力し合っていた。みんな喜んでくれた
Moiwa Bousai Project (MBP)	防災対策の発信方法を見つけて利用し、対策の改善点や自分自身が今すぐに始められることを見つける	防災対策の発信方法の提案を発表することで、若い人と防災をつなぐきっかけになる	●南区に多い土砂災害については、特別の防災システムは未整備だった ●藻岩高等学校の教職員を対象にした防災意識に関するアンケートによれば、自発的な情報収集の手段はインターネットと判明。スマートフォンへの防災情報を発信するのが有効とわかった

藻岩高等学校の生徒たちは、地域の「smile」や「sustainable」を意識し、目的や意義を明らかにして、プロジェクトを行った。机上の提案に終わらず、現場に出て行動し、仮説の検証を行った点が意義深い。

的な探究の時間」の全体計画はどのように
なっているのか。

1年生は「実体験を通して社会に目を向ける」といったその「土台」を丁寧につくる。2年生では、MSPを通して社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する。そして3年生では、「持続可能な社会とそれを担う自己の未来を描き、行動する」。(下図参照)

このようにして3年間を丁寧に積み上げていけば、無理なく「持続可能な社会の実現に向けて新たな価値を共創できる人物」を育て上げ、社会へ送り出すことができる。「3年間の計画に確信を持たせたのは、ある交流会で生徒が自己紹介を求められたとき、名前を告げる程度と想像していたところ、再編した総合探究を経験した3年生が『将来〇〇の道に進んで、SDGsの〇番を実現したい』と熱く語ったんです。その姿に、私や参加していた大学関係者は驚きと感動を覚えました」(長井さん)

では、地域はMSPをどう捉えているのか。地域の変化について、「MACORI」を見守ったまちづくりコーディネーターの林匡宏さんは、次のように語る。

「スイーツが完売したのは、高校生がまちの課題解決を楽しむ姿に地域の人が心が動かされた証です。その様子を見て『教

育×まちづくり』に可能性を感じました」

新型コロナウイルスの影響で「探究」はどうなったのか

こうした希望が見えた矢先に新型コロナウイルス感染症が拡大。授業時間数の大幅減少で、多くの高校は探究や地域連携を先送りしたが、同校の取った方針は違った。コロナ禍に起因する地域課題に着目させる形で、迅速に軌道修正を図ったのだ。

「驚いたことには、夏休み前なのに『こんなことをやりたい』と申請書を提出する生徒が現れました。コロナ禍を超えて、探究が学校の文化になっていくのを感じています」(長井さん)

「総合的な探究の時間」の経験があったからこそ、生徒たちは地域に興味を示し、地域が抱える問題を掘り起こし、課題解決へと貢献することができた。これは、単に札幌のローカルエリアの話ではない。ほかの都市部の大規模な進学校の生徒にも、同様の学びを届けるべきだと考える。

藻岩高校の実績を見るにつけ、ほかの進学校で変革が進まないのは、本当に不可能だからなのか、それとも誰かの怠慢によるものなのか、問わざるをえない。

筆者は藻岩高校の挑戦が、広く波及することを願ってやまない。

Taro Urasaki

1965年岐阜県生まれ。岐阜県内で高校教師として学校と地域の連携について実践的に研究。2017年4月に大正大学地域構想研究所教授、20年4月より現職。地域創生学部で実習企画や学生指導を担いつつ、高校と地域が連携して人材育成と地元回帰を推進する仕組みの普及に尽力。文部科学省中央教育審議会学校地域協働部会専門委員を務めた。

オンラインに切り替えた2年生の「南区探究MSP」(2020年度)

2020年5月8日に提示された探究課題

探究課題

新型コロナウイルスの感染拡大が高校生にも地域にも深刻な影響を及ぼしていることから、「南区探究MSP」でも「新型コロナウイルスに起因する社会現象から感じたこと」を手掛かりに課題を設定し、地域社会の一員として課題解決に向けたアイデアを考えることにする

探究の手順

- STEP 1** 新型コロナウイルスによって家族や友人など身近な人の日常(生活や仕事など)にどのような変化が起きたか、思い浮かんだことを書き出す
- STEP 2** 新型コロナウイルスによって自分の生活圏(住む地域)にどのような変化が起きたか、思い浮かんだことを書き出す
- STEP 3** STEP1・2を踏まえて、新型コロナウイルスによって自分の生活圏に生じているさまざまな問題の中で、最も関心のあることや解決したいことは何かを考える
- STEP 4** STEP3が生じた要因は何かを考え、できるだけたくさん、かつ具体的に内容を書く(図やイラストで表現してもよい)
- STEP 5** STEP4を踏まえ、STEP3に対して今の自分(高校生)でもできること、今の自分だから暮らしの中でできることを考えてみる

藻岩高等学校の探究計画は、コロナ禍で後退するどころか、地域課題に対する生徒の当事者性を高める絶好の素材となった。機動的に取り込み、当初計画より前進。ピンチをチャンスに変えることに成功した。



C O L U M N

「南区探究MSP」から得られたこと

学校がある札幌市南区を題材に探究的な学習に取り組む高校生や関係者は、どのようなことを学んだのか。

地域の人不安を吹き飛ばしてくれた

ながい かつる
長井 翔 さん
市立札幌藻岩高等学校教諭
探究委員会委員長



私の役割は、先駆者がゼロから地域の人々と対話を積み重ねてつくったつながりの価値を学校として紡いでいくことでした。不安で悩むことばかりでしたが、伴走者である地域の皆さんとの出会いが「ワクワクの連鎖」となり、それらを吹き飛ばしてくれました。これからは生徒と一緒にミライへの希望の光を灯します。

生徒に感動と刺激をもらった

はやしまきひろ
林 匡宏 さん
Commons fun代表



最初は緊張していた生徒たちが、企画会議に参加し、考えを発表することで地域の人からも指摘を受け、たくましくなっていました。特に自分たちのやるべきことが明確になってからの行動力はものすごく、地域の食材を生かしたスイーツ開発をどんどん進めました。「MACORI」での活動に地域の大人は感動し、心地よい刺激をもらったと思います。

まちの文化を目指し 今後も活動を続ける

たけだ まい
竹田真唯 さん
市立札幌藻岩高等学校3年生



真 胸内上町で活動する中で、近隣の大学生がまちの魅力を知らずすぐ帰ってしまうことを知り、大学生が気軽に寄れる「食べ歩き文化」をつくらうと思いました。南区産のおいしいリンゴを使ったアップルパイをカフェで販売してみたら、大学生や高齢者の方の来店があり、一つのきっかけを感じました。これが文化になるよう今後も活動を続けていきます。



1 多世代・異世代交流の場「むくどりホーム」で、ミニホットケーキづくりのイベントを実施。2,3 地域の国営公園に若者の来場者を増やすために考案したインスタ映えするハート形ベンチ。実際に制作・展示された。



藻岩高等学校「総合的な探究の時間」全体計画 (2020年度の当初計画)

時間を惜しんで形だけの「探究」を行う進学校が多い中、藻岩高等学校の探究はゴールが明確であり、3年かけて無理なく積み上げていけるよう緻密に設計されているのが特徴だ。

全体テーマ

未来に向けた新たな価値を共創する ~持続可能な社会に向けて~

	1年	2年	3年
学年テーマ	実体験を通して社会に目を向ける	社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する	持続可能な社会とそれを担う自己の未来を描き、行動する
目標	<ul style="list-style-type: none"> ●見る・聴く・質問するという「体験」を通して、社会に対する関心を高める ●「体験」を通して、「なぜ?」の問いを持ち、質問する姿勢を育む ●協働的な学びを通して、「体験」をまとめ、表現する力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会問題を身近な問題と捉え、解決する能力を身に付ける ●キャリア教育(特に就業体験)の視点から、社会や地域と連携した体験的学習を通して、新たな課題発見とその解決に挑戦する ●仲間と協働して解決策を共創し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な地域・世界・社会の未来を描く ●未来を担う自分自身を描く ●描いた未来に向けて、現状の自己分析から課題を定め、行動する
スケジュール	<p>探究基礎 (4~7月) 「問い立て」「思考整理」の技能を磨く</p> <p>北大講座 (7~11月) 大学の研究・調査を「体験」する</p> <p>「南区探究MSP」の基礎 (12~翌年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SDGsを学びながら世界や地域の課題に当事者意識を持ち、課題解決に向けたアイデアを共創する ●2年生の「南区探究MSP」の発表会を聞いて、次年度のイメージを持つ 	<p>南区探究MSP</p> <p>STAGE 1 (導入期) (4~6月) ●南区の課題を発見する(テーマ別講演会)</p> <p>STAGE 2 (展開期) (7~9月) ●フィールドワーク(FW)を通して課題を明確化し、解決のアイデアを練り直す</p> <p>STAGE 3 (まとめ期) (10~翌年3月) ●活動をまとめ、発表の準備をする ●「南区探究MSP」の発表会で具体化した解決策を報告する</p>	<p>ミライ (=未来) design (4~12月)</p> <p>STAGE 1 (持続可能なミライを描く) ●働き方を想像×創造 → FW(調査)</p> <p>STAGE 2 (自分自身のミライを描く) ●仕事図鑑の作成(FWのまとめ) ●自身の働き方を想像×創造する</p> <p>STAGE 3 (ミライに向けて行動する) ●デザインしたミライに向けて課題を設定し、解決策を考えて行動する</p>